

日本民俗学会 第71回年会 茨城

第1回 サーキュラー

日本民俗学会第71回年会を下記の要領で開催いたします。本年は茨城県つくば市の筑波大学春日キャンパスが会場となります。年会全体のテーマは「あしもとの歴史を見つめる—語り、書き、あらかず」です。

研究発表につきましては、多様なテーマによるご発表を歓迎いたします。

充実した年会をめざしますので、皆様奮ってご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

一般社団法人日本民俗学会第32期会長 鈴木 岩弓

主催 一般社団法人日本民俗学会

協力 一般社団法人つくば市観光コンベンション協会・つくば市

期日 2019年10月12日(土)・13日(日)

会場 筑波大学春日キャンパス(茨城県つくば市春日1-2)

※同日、茨城県内で、第19回全国障害者スポーツ大会(いきいき茨城ゆめ大会)が開催されるため、宿泊施設の不足が予想されます。早めの予約をお願いいたします。実行委員会では、宿泊等の斡旋は行いません。

会場アクセス

- 鉄道(つくばエクスプレス):秋葉原駅より快速に乗車(45分)、つくば駅下車。
 - 鉄道(JR常磐線):ひたち野うしく駅・土浦駅下車、「つくばセンター」・「筑波大学中央」行きバスに乗車(約30分)、「つくばセンター」下車。
 - 高速バス(つくば号):東京駅八重洲南口高速バスターミナル発「つくばセンター・筑波大学」行きに乗車(約70分)、「つくばセンター」下車。
 - 飛行機:羽田空港・成田空港から高速バスに乗車(約100分)、「つくばセンター」下車。
- ➔ いずれもつくば駅(A1、A2出口)・つくばセンターから徒歩約10分。

※会場への経路図等は第3回サーキュラーに掲載します。

※筑波大学ウェブサイトの交通アクセスのページもご参照ください。

車でお越しの際は近隣の民間の駐車場をご利用ください。

<http://www.slis.tsukuba.ac.jp/grad/access/access/>

年会事務局

〒305-8571 茨城県つくば市天王台1-1-1

筑波大学人文社会系 歴史・人類学専攻 気付 日本民俗学会第71回年会実行委員会事務局

※学内での郵便事故に備え、上記宛名は省略せずにお書きください。

連絡はなるべくE-mailでお願いします。

E-mail: minzokugaku2019tsukuba@gmail.com

プログラム

10月12日(土)

9:00~9:30	理事会
9:45~12:00	評議員会
12:00~	受付開始
13:00~16:00	公開シンポジウム 「あしもとの歴史を見つめる—語り、書き、あらかわす」
16:15~17:50	研究奨励賞授賞式・会員総会
18:00~20:00	懇親会

10月13日(日)

9:00~	受付開始
9:30~12:00	研究発表(午前)
12:00~13:00	昼食
13:00~16:30	研究発表(午後)

※ 今年度の年会は、見学会を企画しておりません。

※ 開始・終了時刻は現時点での予定です。発表プログラムは9月中旬に参加等申込者に送付する予定の第3回サーキュラーでお知らせいたします。

参加・発表申し込み

- 参加・発表を希望される方はオンライン申し込みフォームよりお申し込みください。
「日本民俗学会ウェブサイト」(<http://www.fsjnet.jp/>) →
「日本民俗学会第71回年会ウェブサイト」 → 「参加・発表申し込み」の順にお進みください。
 - オンラインでのお申し込みは**2019年6月28日(金)23:30**までに送信してください。
 - オンライン申し込みをご利用いただけない場合は、同封の返信用葉書に記入し、切手を貼ってご投函ください。期限は**2019年6月28日(金)必着**とします。
 - 参加・発表の申し込みはオンラインか返信用葉書かのどちらか一方でお願いいたします。できるだけオンラインでの申し込みをお願いいたします。
 - 所属の記載方法についてはサーキュラー末尾の「所属の表記について」をご参照ください。
 - 出張依頼状が必要な方は所定欄にチェックを入れて、宛先を記入してください。
 - 託児室の利用を希望される場合は所定欄にチェックを入れてください。
- ※ 返信用葉書を住所変更通知など年会業務とは無関係の連絡には使用しないよう、お願い申し上げます。
- ※ お送りいただいた個人情報については、第71回年会に関わる事務においてのみ使用し、別の用途に使用することはありません。
- ※ 第2回以降のサーキュラーは参加等申し込みをされた方のみにお送りいたします。サーキュラーは年会ウェブサイトにも掲載します。

参加費

年会参加費	前払い	当日	
会員（一般）	4,000 円	5,000 円	
会員（学生）	2,000 円	3,000 円	
非会員（一般）	－	5,000 円	（当日受付のみ）
非会員（学生）	－	3,000 円	（当日受付のみ）
懇親会参加費	前払い	当日	
会員（一般）	5,000 円	6,000 円	
会員（学生）	2,500 円	3,000 円	
非会員（一般）	－	6,000 円	（当日受付のみ）
非会員（学生）	－	3,000 円	（当日受付のみ）
13 日（日）弁当代	700 円	－	（当日販売なし）

※ 会場最寄り駅周辺には飲食店・コンビニがいくつかありますが、大学内の食堂は土日とも閉店しておりますので、弁当の事前申し込みか持参をおすすめします。

※ 年会参加費・懇親会参加費・13日弁当代ともに、納入期限は8月16日（金）です。期日にて振込み口座を閉鎖いたしますので、それ以降は年会当日に当日料金でお支払いください（ただし、弁当の当日販売はいたしません）。

※ 一度納入いただいた参加費等はいかなる理由があっても返却いたしません。あしからずご了承ください。

※ 納入方法は、7月下旬に参加等申込者に送付する予定の第2回サーキュラーにてお知らせいたします。

研究発表形式

一般発表

- 発表 20 分・質疑応答 5 分・移動 5 分を 1 ユニットとします。
- 一般発表を行う方はオンラインもしくは同封の返信用葉書にてお申し込みください。
- 発表内容は日本民俗学会および関連する諸学会等において、未発表のものに限ります。重複発表が判明した場合は、参加費の納入の如何にかかわらず、発表をお断りします。
- 備え付けの機材は PC（Windows）と PC 用プロジェクターです。機材の使用を希望される方はオンライン申し込み画面または返信用葉書の所定欄にチェックをしてください。
- 発表は日本語でお願いします。

グループ発表

- 統一テーマのもとで 4 名以上の発表者からなるグループ発表を受け付けます。うち 1 人をグループ発表の代表者としてください。
- グループ発表の場合、代表者の方だけでなく、その他の発表者の方も「研究発表申し込み」を行っていただきます。オンラインもしくは同封の返信用葉書にてお申し込みください。

- グループ発表の時間枠は 120 分となります。枠内の時間配分は代表者にお任せいたします。
 - グループには適宜、司会を設定していただくことができます。司会自体の登録は必要ございませんが、プログラムへの記載もいたしません。なお、学会側からの座長の配置はいたしません。
 - グループ発表で使用できる機材は一般発表に準じます。
- ※ 個人発表とグループ発表、両方での発表はできません。
- ※ 発表要旨は年会より前（9月）に年会ウェブサイト上にて PDF ファイルで公開します。年会終了後も当分の間、掲載を続けます。

発表資格

- 第 71 回年会における発表資格条件は、2019 年 5 月末日時点で 2019 年度の会費を納入済みの会員および名誉会員です。
- ※ 新入会員については、2019 年 5 月 12 日開催の理事会で入会を承認されている必要があります。
- 期限（8 月 16 日（金））までに年会参加費の納入および発表要旨の提出がない場合、発表は自動的にキャンセルとなりますので十分ご注意ください。

託児室の申込み

会場には託児室を設置する予定です。会員の方が会場で託児室の利用を希望される場合、年会参加申し込み時にその旨ご連絡ください。具体的な申し込み方法は、第 2 回サーキュラーにてお知らせいたします。

書籍販売の申込み

会員および出版社の方が会場で書籍の販売を希望される場合、年会ウェブサイトに掲載する「書籍販売登録票」にご記入の上、9 月 6 日（金）までに年会事務局宛に申し込んでください。具体的な申し込み方法は第 2 回サーキュラーにてお知らせいたします。

今後の日程

オンライン申し込み期限	6 月 28 日（金）23：30
返信用葉書郵送期限	6 月 28 日（金）必着
第 2 回サーキュラー	7 月下旬発送予定（参加等申し込みの方のみ）
内容：参加費等納入方法、その他年会参加に関する連絡事項、発表要旨の提出方法、発表要領、託児室の利用について、書籍販売申し込み要領、出張依頼状（希望者のみ）	
参加費等納入期限	8 月 16 日（金）これ以降は当日料金になります。
発表要旨提出期限	8 月 16 日（金）
書籍販売申し込み期限	9 月 6 日（金）書籍販売登録票提出
第 3 回サーキュラー	9 月中旬発送予定（参加等申し込みの方のみ）
内容：会場案内、発表要領、各発表会場プログラム	

公開シンポジウム

あしもの歴史を見つめる—語り、書き、あらわす

主旨

民俗学では古くから人びとの歴史を記述するという営為を行ってきた。これは人びとが語り、書き、実践し、表現する歴史自体に価値を見出すというまなざしに特徴をもっている。また、今日の民俗学では、人びとの歴史や人生の語りなどを扱うことが方法論的に見直される機運が改めて高まっている。2019年は、新たな元号を迎える年となったが、同じく、昭和という時代を迎えたばかりの1930年、柳田國男は『明治大正史世相篇』を著した。そこで柳田は、人びとの日々の暮らしや人生が記録されずに忘れ去られることを恐れ、些末な物事こそを丁寧に記述していくことを試みた。その6年後に生まれた宮田登は、後年、歴史の主体を生活する人びとそのものに置く「民俗的歴史」論を掲げていく。時を同じくして高度経済成長の中で生活や地域を見つめる視点から市民運動が盛んになり人びとが歴史の主体となっていく。しかし、その後のバブル経済とその崩壊の中で社会は急激に変化し、人びとの価値観も多様化し、地域の歴史や文化も一つのものとしては語れなくなっていく。また、現代の生活は、就学や仕事の都合で生まれ育った地域から移動、転居することも多く、地域の歴史や個人の暮らしは仮想空間を含めた様々な時や場で断片的に語られ、再編され、意味づけられ、あるいは忘れられていく。こうした現状の中で、私たちは、民俗学の立場から改めて人びとの暮らしや人生、地域の成り立ちといったあしもの歴史を振り返る必要があるのではないだろうか。

民俗学では、語られる声、書かれた文字、モノや空間、行為としてあらわれるものに着目し、人びとの暮らしや人生といったあしもの歴史と民俗とを相互の関連の中で厚く記述し続けてきた。他方、社会学や心理学においても臨床的研究やナラティブアプローチによる生活史の中で人びとのあしもの歴史が記述されてきた。語りについての議論は、そこから歴史を再現するだけでなく、その底流に流れる人びとの意識を紡ぎ、文字文化に関する議論は、文字が単なる「史実」をあらわす媒体ではなく、時代状況の中に生きる人びとが伝え受け継いできた文化そのものであることを明らかにした。アメリカでは歴史学や考古学とも連動するパブリック・ヒストリーが台頭したが、日本においても公共性や社会実践の視点から博物館や教育・行政機関との連携の中で人びとが主体となる歴史を踏まえた実践的な民俗研究が進められている。あるいは、文化財保護法が文化財の「活用」に大きく舵をとった現在、地域の生活の中で受け継がれてきたあしもの歴史はどのようにあらわされるのか。民俗を生み出し、伝承し、実践する主体としての人びとが共有する歴史とそれに基づく様々な実践と表現について、今日の民俗学からはどのようなアプローチが可能なのであろうか。今、あらためて民俗学が記述してきたあしもの歴史を問うことで議論を深めていきたい。

日時 2019年10月12日(土) 13:00～16:00

会場 筑波大学春日キャンパス(茨城県つくば市春日1-2)

パネリスト等

主旨説明	古家信平(筑波大学名誉教授)
パネリスト	東資子(一関市教育委員会)
	小池淳一(国立歴史民俗博物館・総合研究大学院大学)
	清水満幸(萩博物館)

コメンテーター 門田岳久（立教大学）

岸政彦（立命館大学）

山中弘（筑波大学特任教授・日本宗教学会会長）

（順不同）

プレシンポジウム（日本民俗学会第 905 回談話会）

かくれ、あらかず—民俗信仰における内面化と顕在化

主旨

外部から伝えられた大伝統としての宗教は、一度は人びとの生活の中に受け入れられ在地化・内面化され民俗信仰として維持される。その一部は、歴史的、社会的、政治的状況の中で禁圧されるが、途絶することなく、かくれた民俗信仰として今日まで維持された。しかしながら現代のグローバルな時代状況の中で、かくれたものであること自体が世界遺産登録などの文脈に載せられ、客体化・顕在化され、外部からの価値を付与される。外部に対してかくすべきものとして伝承し、自らのものとして受け継ぎ実践して来た民俗信仰が、みせるもの、あるいはあらかずものへと転換する。さらには、担い手はその現状をも組み込んで、民俗信仰を今一度内面化していく。あるいは従来、島嶼社会の中で受容され、在地化、内面化された民俗信仰においても、島嶼と本土の交通網の整備など外的な空間要因の変化により、大きな変化が生じている。今回のシンポジウムでは、民俗信仰の実態とその変化を長期間のフィールドワークを通じて研究されている 3 名の研究者をお招きし、ご報告いただくとともに、かくれた民俗信仰における内面化と顕在化について、地域の歴史性と人々の歴史認識とを踏まえた議論を行う。

日時 2019 年 7 月 14 日（日） 13:30 ～ 17:00

会場 神奈川大学横浜キャンパス（神奈川県横浜市神奈川区六角橋 3 - 27 - 1）

パネリスト等

主旨説明 徳丸亜木（筑波大学）

「民俗信仰における内面化と顕在化」

報告 中園成生（平戸市生月町博物館・島の館）

「世界遺産「長崎・天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」における
かくれキリシタンの捉え方と課題」

吉留徹（土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム）

「離島における真宗と民俗の変容
一角島大橋の開通とその影響から」

森田清美（志學館大学）

「真宗禁制と民俗信仰」

コメンテーター 真野俊和（NPO 法人頸城野郷土資料室）

渡部圭一（滋賀県立琵琶湖博物館）

所属の表記について

すでに会誌『日本民俗学』や日本民俗学会ホームページに掲載してお知らせしてありますと
おり、第29期理事会は、2014年7月13日に「日本民俗学会会員の属性、帰属意識の多様性
の尊重に関する声明」を公表しております。

この声明にもとづき、第67回年会から、参加登録の際の記名、名札、発表要旨集、会場配
布レジュメ、質疑応答等での所属・肩書き・立場性の表明は、各人の帰属意識に基づいて主体
的かつ自由に表明していただくことになりました。

参加登録の際の「所属」欄をはじめ、発表要旨集、会場配布レジュメ、質疑応答等での所属・
肩書き・立場性の表明は、たとえば、つぎのようにお願いいたします。なお、所属・肩書き・
立場性の表明は、原則として一人一つでお願いします。

例：山田 太郎（〇〇市立博物館）、山田 花子（〇〇大学大学院生）、山田 太郎（〇〇民俗学研
究会）、山田 花子（〇〇県）、山田 太郎（NPO 法人〇〇）、山田 花子（自営業）、山田 太
郎（株式会社〇〇）、山田 花子（会社員）、山田 太郎（インディペンデント・フォークロ
リスト）、山田 花子（〇〇大学非常勤講師）など

<参考>

日本民俗学会会員の属性、帰属意識の多様性の尊重に関する声明

日本民俗学会は、多様な社会や組織に帰属し、多様な帰属意識を有する人びとによって生み
出され、発展されてきた歴史をもつ。この会員の属性、帰属意識の多様性は、現在でも顕著で
あり、日本民俗学会の大きな特徴となっている。私たちは、この会員の属性、帰属意識の多様
性を尊重する。

さらに私たちは、日本民俗学会の活動の場において、会員が自己の所属、肩書き、立場性等
を、各人の帰属意識に基づいて主体的に表明する自由を保障する。

2014年7月13日

第29期日本民俗学会理事会